

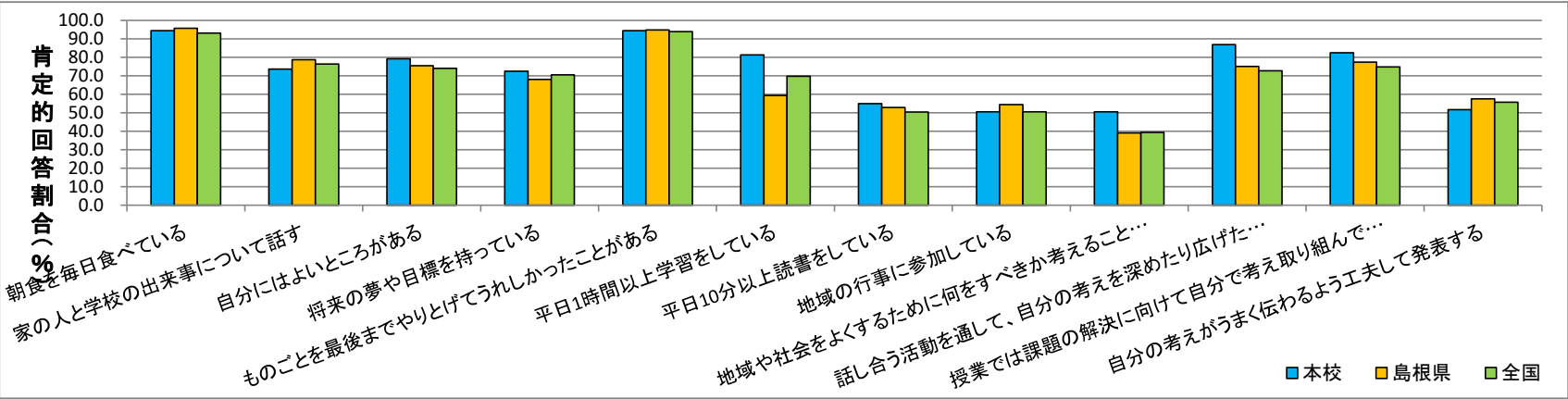
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
国語	○「書くこと」「読むこと」の平均正答率が高く、基礎学力はおおむね良好である。 ○記述式問題の平均正答率が高く、無解答率は比較的低い。記述する力が身につけていると言える。 ●「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率がやや低く、実生活と関連づけた知識の活用に課題がある。	・語彙や書写の指導で、実生活の具体的な場面を想定した活動を増やす。 ・授業中に集団で話し合う機会を増やし、話の流れや自分の役割を意識して学習に参加するように指導していく。
数学	○「数と式」「資料の活用」領域について、県平均正答率を上回っている。 ○問題解決をするためにどのような代表値を用いるかを判断する問題について、平均正答率が県・全国平均正答率ともに10ポイント以上上回っている。 ●「関数」「図形」領域に弱みがみられる。 ●記述式問題について、県・全国平均正答率を下回っている傾向がある。	・関数の学習と関連付けて学習する機会を持つように工夫する。 ・数学を普段の生活の中で活用しようとする力をつけるために身近な教材を取り上げるように工夫し、グループ活動など活用して、自分の考えを説明する力をつけられるようにする。
英語	○「言語や文化についての知識・理解」の平均正答率が高い。 ○日常的な話題について、情報を正確に聞き取ったり、読み取ったりすることが得意である。 ●聞いたり読んだりして把握した内容について、返事やアドバイスをするなどの問題に対して、適切に答えることが苦手である。 ●説明文を読んで、話のあらすじを理解したり、書き手の意見などをとらえたりすることが苦手である。	・ALTとの授業で、ALTが与えた課題に英語で適切に対応する場面を設定する。 ・説明文に触れる時間を多くし、あらすじの理解や書き手の意見などをとらえることに慣れさせる。

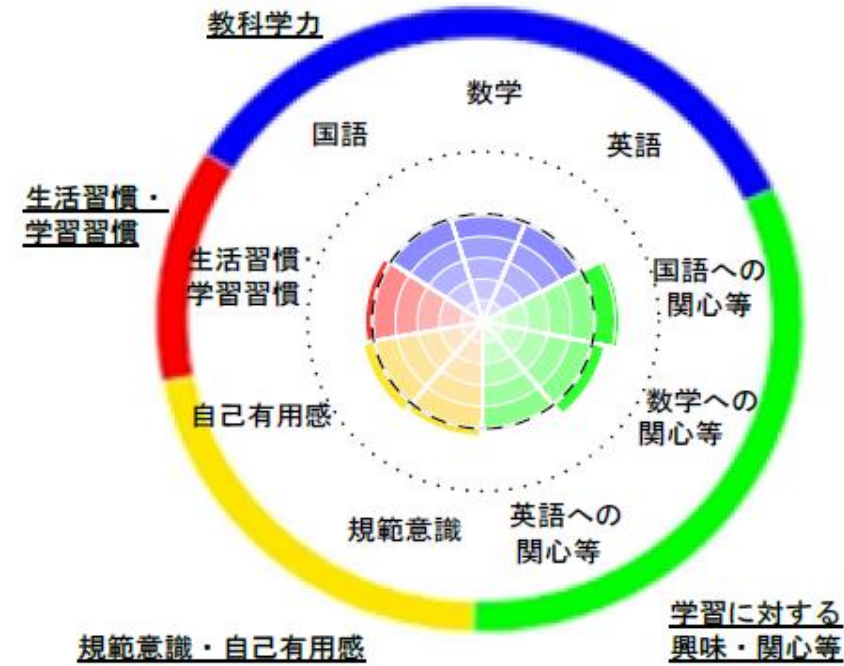
(2)生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
○自己有用感が高く、将来の目標を持ち、他の生徒と関わり合いながら問題を解決していくとすることが身に付いている。 ○「総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んだと思うか」という問いに対して、肯定的な回答をした生徒が、全国の回答と比較して20ポイント以上高い。 ●自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する経験が少ない。 ●地域や社会への関心が高いが、地域の行事に参加をしていない傾向がある。	・教科指導や総合的な学習の時間に発表したり、伝え合う活動や機会をできるだけ多く取り入れたりして、指導するようにする。 ・総合的な学習の時間の探求課題の1つを、「自分・地域・人のよさに気づく」とし、3年間を通して、地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動を充実させていく。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・テスト問題を時間内に終わることができない生徒の割合が高いので、教科指導や定期テストなどでまとまりのある文章を読み解く機会を増やして、速く読み解く力をつけるような工夫をしていく。
・総合的な学習や地域の行事において地域の方と関わる機会を増やすことで自他のよさを発見し、将来の目標が持てるようにする。

【参考】

○平均正答率	本 校	松江市	島根県	全国
国語	73	73	73	72.8
数学	59	60	57	59.8
英語	55	54	53	56.0

受検者数 91 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受験者数をもって表示しています。